

立教大学異文化コミュニケーション学部

2015 年度連続講演会「通訳翻訳と異文化コミュニケーション」

第 1 回「字幕翻訳と異文化コミュニケーション」

日時：

2015 年 4 月 25 日（土）

13:15 – 16:30

会場：

池袋キャンパス

マキムホール 3 階 M302

<http://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/campusmap/>

主催：

立教大学異文化コミュニケーション学部

対象：

本学学生、教職員、校友、
一般市民

受講無料

申込不要

問合せ先：学部事務 4 課
異文化コミュニケーション学部
担当（03-3985-4824）

第 1 部 字幕翻訳研究の今（13:15-14:45）

篠原有子（字幕翻訳者、成蹊大学非常勤講師）

「日本映画の英語字幕における標準化傾向」

秋山珠子（字幕翻訳者、立教大学教育講師（中国語））

「不自由が強いる自由—中国インディペンデント・ドキュメンタリー映画の字幕翻訳を通して」

武田珂代子（異文化コミュニケーション学部・研究科教授）

「映画の中の複数言語使用と通訳者」

第 2 部 招待講演（15:00-16:30）（使用言語：英語、通訳なし）

講演者：Markus Nornes（マーク・ノーネス）

ミシガン大学映画芸術文化学部・アジア言語文化学部教授。専門はアジア映画研究。著書に *Cinema Babel: Translating Global Cinema*、*Forest of Pressure: Ogawa Shinsuke and Postwar Japanese Documentary*、*Japanese Documentary Film: From the Meiji Era to Hiroshima*、*Staging Memories: Hou Hsiao-hsien's City of Sadness* など。山形国際ドキュメンタリー映画祭のコーディネーターを長年務めた。

演題：Afterthoughts on “For an Abusive Subtitling”

アニメファンサブの台頭を背景にノーネス氏が 1999 年に発表した論文“*For an Abusive Subtitling*”は映画研究のみならず翻訳研究にも多大な影響を与え、翻訳学 (Translation Studies) の一分野としての視聴覚翻訳研究 (Audiovisual Translation Studies) 発展のきっかけともなった。その後、abusive subtitling について研究者の間で多様な解釈や議論がなされてきたが、今回は、その概念を振り返り再考するための講演を行っていただく。*TOKYO TRIBE*（園子温監督）と *National Gallery*（Frederick Wiseman 監督）を事例とする。